

2024. 11 ブログ：「いつまで繰り返す電子政府の電子申請システムの無駄(2)」の詳細
(→ <http://www.1968start.com/M/blog/index3.html#2411b>)

いつまで繰り返す電子政府の電子申請システムの無駄(2)

中所武司

■このエッセイのきっかけ

下記の記事のような政府の電子申請システムの無駄が繰り返されてきたことに言及する。
なお、同じ題目の(1)は、2009年11月のブログで、後述する。

- ・朝日(2024. 11. 15)「電子申請経費、1件6万円 農水省、利用者少なく」
<https://digital.asahi.com/articles/DA3S16084005.html>

■記事の要約とコメント(→★)

- ・11/14開催の政府の行政事業レビューで、農林水産省が運用する電子申請サービスの1件あたりの費用が、6万円超にのぼることが判明した。
申請件数が想定を大幅に下回り、見直しを求める意見が相次いだ。

→★20年前のパスポートの電子申請システムで、
パスポート一冊発行の費用が1600万円という類似の話を思い出した。(後述)

- ・農水省の2020年度に運用開始のeMAFFシステムは、約3300の手続きをオンライン化し、25年度に1年間で400万件程度ある手続きの60%を電子申請に切り替える予定だったが、昨年度は43.9億円の経費に対して、電子申請は6.8万件にとどまった。

→★運用開始から6年目(来年度)に利用数240万件の予定が4年目(昨年度)で6.8万件とは。
システムのビジネス分析や要求分析の段階で、利用率をどのように見積もったのか疑問。

■政府の行政事業レビューとは

- ・デジタル庁説明資料(2024/11/14)
行政事業レビュー 秋のレビュー2024(秋の年次公開検証)
対象テーマ：“農林水産省共通申請サービス”(eMAFF)
https://www.gyokaku.go.jp/review/aki/R06/img/1_2_1_digital.pdf
- ・デジタル庁は、政府情報システムのプロジェクト監理として、予算要求から執行段階を通じ、実施是非や効果設定、QCDと効果の確保について、レビューを実施している
- ・農林水産省共通申請サービス(eMAFF)へのプロジェクトレビューでの指摘事項：

* オンライン化した約 3,300 の手続のオンライン利用率の実績を把握し、
その必要性・効果を確認・整理し、利用実績が低調な手続をフォローすること

→★6年後の60%（240万件）の利用という「効果設定」の内容の根拠がいい加減だったのでは？

* 運用等経費の積算根拠の妥当性を明らかにし、その多くを占めるライセンス費用に関し、
利用実績を踏まえて、運用等経費の削減計画を策定すること

→★開発費と運用経費の妥当性が気になる。

外注先が、開発費を安くして受注し、運用経費で元を取るようなことがないか？

■ 関連する過去の私のブログと学会発表

（年代逆順に紹介：2020年～2003年）

▼2020.10 ブログ「15年前の悪夢：パスポート電子申請システム再び」

<https://www.1968start.com/M/blog/index2.html#2010>

→★次年度予算の概算要求での外務省提案の旅券の電子申請システム（21億円）を見て、
15年前にほとんど利用されないで廃止された、同様のシステムを思い出した。

<引用した関連記事>（2006.8.28）「パスポート電子申請システム廃止で驚きの赤字額」

<https://blog.goo.ne.jp/hosakanobuto/e/0899dbaf9289b0603b7cfd1fa70b8d21>

（抜粋）投下した費用21億3300万円を133人で割ると、パスポート一冊発行に1600万円

▼2010.3 私の学会発表

「End-User-Initiative Approach for Truly Useful e-Government Systems」

the IADIS e-Society 2010 Conference, pp.123-130 (Mar. 2010).

<https://www.1968start.com/M/paper/1003chu.pdf>

（内容抜粋：2.1節で言及）

→★2004年開始のパスポート電子申請システムは、133件の利用にとどまり、2006年に停止。
開発コストをこの件数で割ると、1件当たりのコストは、10万ドル以上になる。

▼2010.1 私の学会発表

「システムの利用率は要求分析の対象では？」

情報処理学会 ウィンターワークショップ 2010・イン・倉敷 論文集、

シンポジウムシリーズ Vol.2010, No.3, pp.39-40 (Jan. 2010)

<https://www.1968start.com/M/paper/1001chu.pdf>

→★（概要）

電子政府の電子申請システムの利用率の悪さが数年前にも今も問題になっている。

利用者視点を忘れ、多額の税金を投入し、電子化実施率を競ってきた結果と言えるが、

そもそもシステムの利用率予測は要求分析の対象ではないのかという疑問がある。

→★（抜粋）

2009年10月の会計検査院のチェックで利用率の悪さが指摘された。

官庁にある64システムでの13,129件の電子申請の利用率は34%。

総申請数に占める電子申請の割合（利用率）10%未満が3割。利用率1%未満は2割弱。

▼2009.11 ブログ「いつまで繰り返す電子政府の電子申請システムの無駄」

<https://www.1968start.com/M/blog/old.html#0911>

→★今回のブログと同じタイトルの15年前のブログ。

（抜粋）まともな「要求分析」が行われていないのではないか。

▼2006.4 ブログ「e-Japan 戦略から IT 新改革戦略へ」

<https://www.1968start.com/M/blog/old.html#0604>

→★（抜粋）利用者の視点に立つのは、当たり前のように、けっこう難しいようだ。

▼2003.3 私の学会発表

「電子自治体向けフォームベースシステムと検索・記入・提出用ポータルサイトの構築法」

情報処理学会 第65回全国大会 特別トラック(10)「e-Japanの進展」講演論文集

分冊5、pp.5575-5578 (Mar. 2003)

<https://www.1968start.com/M/paper/0303chusho.pdf>

→★（抜粋）

「中央官庁では重複開発、地方自治体では手つかずの状態という正反対の現象が生じたが、システムの個別開発という点では共通している」

以上